

# 文化通心



清風入れば琴を奏でるに似たり

## 津田松原

琴林公園の美称で呼ばれる松原に芸術家が二人。護岸のなかった昔、台風の荒波に根もとの砂が洗われ、松の根っこが躍り出た。「おおっ。兄弟、ここにおったか」。版画家・棟方志功は、臥竜の松に大きな雨粒を添えて=津田の松原雨の柵=を彫り上げた。

松林を透かして広がる瀬戸内の海を渡って、シルクロードは終着駅奈良正倉院に至る。汐のざわめきに都大路の華やぎを重層させて=豁然開朗・津田松原=日本画家・平山郁夫は讃岐をきらびやかに見せた。

写真撮影／藤井照芳

25

2000年3月1日(季刊)

●発行所：

財団法人中條文化振興財団  
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号  
TEL.(087) 826-3355 FAX.(087) 826-2212

第三回は熊倉功夫先生を迎えて  
「あ・うんの数寄講座」

日本文化のエッセンスを探る連続セミナー  
平成十二年五月十六日午後二時（

【千利休のオリジナリティとは何か】

日本は、師匠が「こうじゃない」と言ふだけなんです。習う人は「理由は」とは聞かず、そのまま「そうかな」と思いながら帰っていく。師匠は、帰りがけに全部じゃなくてヒントをちょっと与えてくれる。するとうちに着く頃には、あるいは次の日の朝に、「あ、そうか」と。その繰り返しで、だんだん自分の考え方、自分なりの消化の仕方になっていく。

日本の文化を語る上で、それが大事な事だと、僕は思っているんです。

（聞き手・齋藤 裕氏の冒頭挨拶より）



国立民族博物館教授  
熊倉 功夫  
(くまくら・いさお)  
文学博士

斎藤 利休のオリジナリティは何か。  
利休は、いったい何を本当にやつたのか。  
茶の湯といえば、千利休さんがみんなつくった。あるいは、ほとんどつくったと思っている人たちが、わりが多い。僕もちゃんと聞いてみました。千利休さんと紹鷗といふ話を伺つてみたいと思います。

紹鷗と利休という、この二人が非常に大きな存在であります。斎藤さんは、言葉の端々に「利休よりも実は紹鷗のほうが偉いんだよ」という気分がしみ出している。昔は、道具が全部セットになつてました。極端なことをいえば、この掛物を掛

人は侘び茶というものの骨格をほとんど作つてしまつたんじゃないか、利休はそれをもつと洗練させたのかなと思ったことがあります。やはり利休と紹鷗といふのは、ずいぶん違うと私は思つております。今日はどんな違いがあるのかというのを中心にお話をしようと思います。

お茶会のときに「このお茶碗をきょう使ふとしたら、水差を何にしようか」とか、「建水をこれにしたら、掛物は何にしよう」といちいち皆さんは頭を悩まされるでしょう。道具というのは、一つひとつ組み合つたら、なんと広間の床の間に、今度は松島の壺が飾つてあった。聞いて分かつていいのが当たり前だと思っていらっしゃる。ところが、これは最近のことなんですね。両方満足させる。これが紹鷗の時代の茶の湯というもの一つの姿です。昔は、道具が全部セットになつてました。道具といふものが

けたら、水差から茶碗から茶入から全部決まつているようなものだったんです。茶杓に羽淵（はねぶち）とか、古来有名な茶杓というのがあるんですが、それは茶入に付いている「ツキ茶杓」であつて、だから有名なんです。こういう名物の世界というのが、実はずっとあります。この名物にはこの茶杓が付いています。茶入にはこの茶碗が付いているというように、名物同士の一つの世界があつた。これが紹鷗の時代なんです。なぜ紹鷗が、茶入の中の最高の権威を持ち得たかといふと、紹鷗は五〇も六〇も名物を持つていたというんです。茶人と言われる人は、名物を一種持つていれば大茶人でありまして、名物を持つてなくとも茶人はたくさんいたのです。茶人と言われる人は、名物を持つていれば大茶人であるというのでは大変なことなんですね。

武野紹鷗のところへ、たとえば奈良から松屋久政というお茶人が呼ばれて堺まで行くと、前の日にお使いが来て、明日お茶をやるについて何が見たいかという問い合わせが来るんです。「私は松島の壺が見たい」、一人は「波の絵がみたい」と二人の意見が合わないんで喧嘩になります。お使いの人に「お任せします」といつて帰した。次の日に行つたら、床の間に波の絵が掛かっていたというんです。ですかうしたら、一人は大喜びです。一人はがっかりで

紹鷗と利休という、この二人が非常に大きな存在であります。斎藤さんは、言葉の端々に「利休よりも実は紹鷗のほうが偉いんだよ」という気分がしみ出している。昔は、道具が全部セットになつてました。極端なことをいえば、この掛物を掛

けたら、水差から茶碗から茶入から全部決まつているようなものだったんです。茶杓に羽淵（はねぶち）とか、古来有名な茶杓というものが茶会記から出てこなくなるんです。その代わり出てくるのは、利休の茶杓、紹鷗の茶杓なんですね。つまり作者のいる茶杓なんですね。利休の茶杓が素晴らしいと皆さんも思われるでしょう。あれ、ただの竹べらですよ。あの竹べらが何千万するなんて、誰が信じられます。言つてみれば、これは不思議な価値ですね。それは何かというと、この一本の竹べらの値打ちじゃないわけです。その一本の竹べらの後ろにいる利休なんですね。道具が値打ちがあるんじやなくて、道具を選んだ人、あるいは道具を作つた人、その道具を取り上げた名人がみんなの心の中に見えてくるわけです。つまり道具から人へという大きな時代の変化というものがあります。その人といふものが利休なんですね。

ここに利休のものすごい力があつた。利休さんが「おお、これはいい」という、この一言で物の値打ちが決まつてしまふ。なぜいいのかというと、利休がいいと言つた、このことなんですね。ですから、これは茶の湯の世界から一步外の人間から言つたら、こんなインチキな話ではないわけです。実際、利休の死後利休はインチキだという人間と、利休の目は確かだという人間がはつきり分かれるわけです。その後の日本の物の見方というのは、じゃあどうちだつたのかというと、これはもう歴史が証明しているわけですね。利休の取り上

ところが、利休になつて何が変わつたかというと、主役が交代するんです。それは道具ではなくなるんです。何が主役かというと、人が主役になるんです。道具の一覧表を作つてみて、見事に出てきたのですが、天正十五年を境に、名物茶杓というものが茶会記から出てこなくなるんです。その代わり出てくるのは、利休の茶杓、紹鷗の茶杓なんですね。利休の茶杓が素晴らしいと皆さんも思われるでしょう。あれ、ただの竹べらですよ。あの竹べらが何千万するなんて、誰が信じられます。言つてみれば、これは不思議な価値ですね。それは何かというと、この一本の竹べらの値打ちじゃないわけです。その一本の竹べらの後ろにいる利休なんですね。道具が値打ちがあるんじやなくて、道具を選んだ人、あるいは道具を作つた人、その道具を取り上げた名人がみんなの心の中に見えてくるわけです。つまり道具から人へ

げたものは、やはり日本の美の一つの基準になつていった。このことが、すごいわけです。

斎藤 私は、今まで「わび・さび」は、侘びといふのは素材、しかも新しい素材が詰めるというような、時間を経ることによって、どうなつているかという素材的な見方でしました。しかし、武野紹鷗から利休になつたときの「わび・さび」の考え方は、幾分違うんだと思います。きょうは利休さんのお話ですから、そういうところに絡んで、少し侘びについての解釈の仕方をお話し願えませんか。

熊倉 『山上宗一記』の中に、侘び数寄という言葉が出てきますから、これは間違いなく、当時から侘び数寄というものが、一物も持たず、手柄、作為、そういういつたものを心の中に持っている、そういう茶人のあり方というのが、茶の湯者の最高だという考え。いい道具を持つているのが最高じゃないんですよ。何一つ持たずに、心で茶ができるということが最高だと、こういうことを侘び数寄という言葉で言っているわけですから。しかし、侘びという言葉はどういう内容かという、これは私はうまく説明できません。さびについても、うまく説明できないんですね。おそらく、さつき斎藤さんが言わされた一つの解釈もありますが、このごろ僕が思っているのは、やはり心なんじやないかという気がするんですね。

茶の湯というのは、いったい何が茶の湯かというと、わからんのですよ。これが私は茶の湯の秘密だと思います。ですか

ら、茶の湯を芸術だというのは間違いだとと思うんです。だって、芸術として見せるものが何もないんです。茶の湯は芸道だという、これも僕は間違いだと思う。茶の湯は芸ではないんですね。強いて言うと、なんとも言えない世界。最終的には「何かになりたい」という気持ちが茶の湯だろうと。強いる、繰り返す、悟るという、「ああそうか」という気が茶の湯だと思うんです。ですから、何かを目指して、こういうものをつかもうという、はつきり目標があるわけじゃないんですね。やつていくことによって、何かが自分の中に見えてくる。結果として、何も出てこないかもしれない。「ああ、わからない」といつて臨終になるかもしれないんですけど、何かそういうものが自分の中にやがて生まれてくるという思いが、たぶん茶の湯というものの原点なんじゃないか。それが村田珠光のいう「此道、第一わろき事ハ、我慢、我執なり」。だけども「我慢、我執、なくてならぬ道なり」。この二つを迷いながらやっていくなかで、何か自分の中に新しい次なる自分が見つけられるという、そういう訳のわからない道というのが茶の湯じゃないか。そうすると、侘びというのは、何かそういうものを求めることが侘びなのかな、という大変訳のわからない話なのですが。というふうに思うんですが、どうですか。

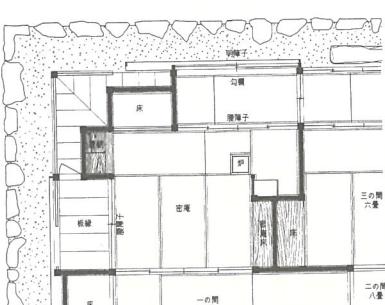
斎藤 いよいよ利休さんはいつたい何をやつたのかということですが…。

熊倉 私は茶の湯というのは四つの要素があるということを、むかし言っておりました。一つは振る舞い方、これは点前作

法です。一番目が装い、衣装とか身に着ける物とか、道具とか、いろんなものがあります。三番目が設（しつら）い、茶室、露地の飾り方、そういうものであります。四番目が想い、思想ですね、侘び。この四つを一举に現在の形に固めたのが利休だと思っています。たとえば濃茶の点前で、みんなで回し飲みをしようということを確立したのは利休ですね。あるいは躊躇（ちゆうじゆ）というものをつくって、茶室の一つの空間というものをつくれたのは利休です。あるいは、いま皆さんが茶の湯というものを考

えたときに、すぐ茶碗だつたら樂と考える。あの樂の茶碗というものをつくったのは利休です。あるいは花生けといったら竹の花入、これは利休です。ですから、装いというのも利休、設いというのも利休、そして侘びという意識を完成したのも利休、そういう意味でいうと、利休といふのは、茶の湯の一つの構造みたいなものを作ってきたのじやないかと思います。

利休型というのは何だろうというと、ある種の一つの基準、その後の基準になつてくるということですね。これは利休のオリジナリティというもののがすごさですね。（第3回「あ・うんの数寄講座」より一部抜粋）



龍光院密庵席 平面図

## 国宝茶室 三、 密庵席

大徳寺塔頭龍光院にあるこの茶室は、小堀遠州が慶長年中に書院の造営の時期に建てられた四畳半台目の茶席である。

台目床と密庵床を配し、まっすぐな杉丸太の中柱を用いた台目構え本勝手火炉となつていて、密庵咸傑禪師の墨蹟の軸を掛ける為に床の間（密庵床）を造つたので、この席名があると伝えられている。

中柱の壁のところは杉板を嵌込み二重釣棚を設け、密庵床の床柱は檜の三寸五分角の大面取りで、内壁は貼壁に水墨山水を画いたものである。床脇の違棚には松花堂筆の琴棋書画の地袋があり、各柱は角柱と面皮を交えて用いている。また違棚の透彫は、遠州好みの中でも最も代表的な意匠であり、その輪郭に茶の湯の気持ちを通わせることを忘れていた点を見逃してはならない。

密庵席は小堀遠州の遺構として孤蓬庵の忘筌席とともにその代表作といわれている。

## 「お茶」はバロメーター

「お茶」で三年、食事で二日、お酒を飲んだら三時間」。下世話な表現ですが、恋人度子エックとてもいいましようか。いつも喫茶店でお茶ばかりでは仲良くなるのに三年かかり、食事をともにしていると三日もすればうち解けて、小さなバーで洒落たグラスを傾けるとたちまちに意気投合するというものです。恋のアプローチも取りあえずは、「お茶でも如何ですか」で始まりそうですね。

他所さまを訪問して「お茶も出なかつた」ら、歓迎されなかつたのかしらと気になりますし、お迎えしたお客様が「お茶も飲まずに帰つた」ら、ご機嫌を損ねたらしく心配します。水商売で「お茶を引く」のは営業成績にかかる重大な意味を持ち、いつも「お茶を濁す」ばかりしていては信用に響きます。いろいろなバラメーター言葉になりそうなお茶を「茶化す」わけにはいきません。

## 「お茶」の値段は如何ほど

ところが、おもてなしの基準ともいべきお茶が、飲食店では原則として「タダ」のことに不思議を感じたことはありません。お客様や飲食の多少にかかわらずサービスされるお茶も、ついぶんと単価が違います。例えば、食堂で同席した人に出

## お茶を語る

カット 森岡喬子

## 「お茶」つて売り物ですか



### お茶の時間

「日本茶は日本の飲み物でしょう」と憤ったという青年を、甘党の店や和風喫茶に案内すれば、煎茶、お薄など要望に応えられたと思うのですが、彼の言う日本茶はいわゆる普通のお茶のことだったらしいです。お店の人に行けを話すとお茶の一杯ぐらい出してもらえただらうにも思えるのですが、では、どうして普通の一般的な喫茶店で普通の日本茶を、メニューに加えないのだろうかという話しに進展しました。

あれは商売人にとって、また、日本人の認識の中で、お金をいただける物ではなく、普通のお茶ではお金はいただけない値段につくお茶になりそうです。喫茶店の「お冷や」についても同じことがいえるでしょう。バーでお水を頼むと「うちのお冷やは高いのよ」とママさんが言いますが、高いものがタダなのか、高い料金が伝票についているのかは疑問ですね。

店主や客が疑いもなく「タダ」と習慣づけてきたお茶にこだわるのには少々訳がありまして、外国から来たという青年の話がきっかけになりました。その青年を喫茶店に案内したという人が話し始めたのですが、喫茶店で日本茶を注文すると「ありません」と断わられたそうです。すると、青年は日本の喫茶店で日本茶がないことを不思議がり、疑問をぶつけてきました。この時の「タダ」には「普

## 行事予定（三月～五月）

### 四月月釜「春爛漫」

花や野草を追いかけて野遊びにでも出かけたい春だけなわの四月は、茶の湯を楽しむ方々にとって、永く楽しんだ炉への名残りの月でもあります。昨年風炉の季節に釜をかけて下さいました川西宗岩先生が、今春最後の炉釜をかけて下さいますのでご案内申し上げます。

とき 平成十二年四月三〇日(日)

主席 裏千家流

内容 川西 宗岩 先生

定員 全五席 各席二五名様

席料 八千円

茶券ご案内

第一席 九時〇〇分～十一時二〇分

第二席 十時二〇分～十二時四〇分

第三席 十一時四〇分～十四時〇〇分

第四席 十三時〇〇分～十五時二〇分

第五席 十四時二〇分～十六時四〇分

### ■文化講演会

岡田 寛の音楽夜話

46年間も続くギネス級最長寿番組「タンゴ・アルバム」のDJをはじめ、音楽文化の普及発展に日夜活躍されている音楽評論家、岡田寛さんの楽しい講演と茶話(釜)会です。

# Oh! 茶Gai!

その③



「渋谷系って知っています?」「映画が好きで、月に四～五回は映画館に行くんです。」そんな今回の茶Gaiは、お煎茶を習う藤阪環さん。お煎茶を習い始めたのは、知り合いの先生に誘われて行つたら偶然お煎茶だったからです。特にこだわった訳ではないそうです。でも習い始めていくうちに器や量、季節に会わせた入れ方が奥深く、知識が深まっているという満足感があつてどんどん面白くなっているそうです。「それに最近知つたことなんですが、実は祖母がお煎茶の先生をしてたそうで、何か因縁を感じますね。」さらによく聞いてみると、広島の親戚にも同じ流派の先生がいるとか。彼女は現在、社内でコンピュータのインストラクターをやっているそうで、生まれながらの先生気質なのかも知れません。趣味やお茶の話をしている時のキラキラした瞳が印象的な女性でした。

## 喫茶居(三)

### 「日暮亭」

栗林公園・日暮亭が百年ぶりに保存修理を終え、一般公開されています。

紫雲山を背景として、茶室や書院を路(みち)や水で結んだ回遊式の大名庭園は藩政時代の「みやびな讚岐」ですが、北湖に沿つて梅林橋を渡ります。桜の馬場を過ぎて右に曲がると、茶店風に小旗のあがつた日暮亭が見えます。

石州好みに水屋の周りを大小の茶室が囲み、貴人口からあがつたり、にじり口



で腰をかがめたり、正式な茶会には客や趣向で使い分けられますが、散歩途中の一休みには、庭に並べた緋翫の腰掛けが手頃な便利さです。

如月・弥生・日・遅々(うらうら)。

野点を思わせる大きな日傘の影で、点て出しのお薄を一服いただきました。

玉露から番茶の出がらしまで、もてなしの「お茶」は日本人の心、日本の文化を語つてきましたが、近年のお茶は緑茶だけに限らなくなりました。気軽に抹茶を点てるおばあちゃん、玉露のしづくを楽しむお父さん、ミルク紅茶が似合うお姉さん、ウーロン茶をガブ飲みする弟、ブラックコーヒーの好きな私と、家族が意味する「お茶」もまちまちになりました。

つまらないおしゃべりに長々とつき合つて下さったあなたに、一休みのお茶をお出ししたいのですが、さて、あなたには何を差し上げましょうか。



(右頁より続く)  
「通」と「無料」の両方の意味が込められていました。

## 「お茶」に国際色・現代色

ヨーロッパではカフェでもレストランでも水は有料です。飲み物リストに堂々と水の料金が明記されることを奇異に感じますが、日本食店では席に着くと香ばしい焙じ茶が運ばれ、おかわりも自由で無料です。水より手間をかけたお茶が無料というのはナンダカ変に思えますが、外国にいながらも、日本の心で商売しているのでしょうか。

玉露から番茶の出がらしまで、もてなしの「お茶」は日本人の心、日本の文化を語つてきましたが、近年のお茶は緑茶だけに限らなくなりました。気軽に抹茶を点てるおばあちゃん、玉露のしづくを楽しむお父さん、ミルク紅茶が似合うお姉さん、ウーロン茶をガブ飲みする弟、ブラックコーヒーの好きな私と、家族が意味する「お茶」もまちまちになりました。

白杵さんは高瀬町出身で日本音楽集団に所属する邦楽打楽器のプロ。八八年よりサヌカイトの演奏に本格的に取り組み。九八年にはウイスキー「響」十一年」CMなどで知られる。今回は中国の伝統弦楽器二胡や繩文太鼓、二十三絃箏などプロ邦楽仲間の協力を得て、東京と高松で演奏されるものです。

第一回 3月23日(木)午後6時30分  
「クラシックは一期一会」  
第一回 4月27日(木)午後6時30分  
『クラシックの現場から』

定員 三十名様  
会費 五百円(当日受付で)  
主催 財団企画委員会

岡田 寛さんのプロフィール

音楽評論家・高松コンサート協会代表・志度音楽ホール総合プロデューサー・香川日壇協会常務理事ほか。本物の音楽にこだわったコンサート企画やマネージメントに多忙な毎日を送るパワフルな67才。

### ●岡田先生よりのプレゼント

「白杵美智代サヌカイトリサイタル」の招待券をお預かりしております。三月十日(金)午後七時開演。アクトホールです。時間がありませんので先着二名様に差し上げますのでがきかFAXでお申し込み下さい。

白杵さんは高瀬町出身で日本音楽集団に所属する邦楽打楽器のプロ。八八年よりサヌカイトの演奏に本格的に取り組み。九八年にはウイスキー「響」十一年」CMなどで知られる。今回は中国の伝統弦楽器二胡や繩文太鼓、二十三絃箏などプロ邦楽仲間の協力を得て、東京と高松で演奏されるものです。

すべて予約制(時間指定)となります  
お申し込み、お問合わせは、  
当財団事務局まで

# 茶 華 道 ガ イ ド

官休庵 佐々木博子社中 ☎(087)821-8777

3/5 第5回香川大学学生金  
中條文化振興財団 9:00~ ●

表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

5/14 表千家流四季茶会 本覚寺別院 9:00~ ●

江戸千家不白会香川支部 ☎(087)851-5330

3/12 栗林公園日暮亭改修記念茶会 梅月亭 9:00~ ●

3/26 江戸千家不白会香川支部50周年記念茶会  
披雲閣 9:30~

淡交会高松支部 ☎(087)831-0687

3/5 淡交会高松支部月釜 天神会館 9:00~ ●

4/2 淡交会高松支部月釜 天神会館 9:00~ ●

4/23 出合い・発見・楽しむ茶会 披雲閣 9:00~ ●

5/7 淡交会高松支部月釜 天神会館 9:00~ ●

武者小路千家 香川官休会 ☎(087)851-2258

3/2~13 桜に見る日本の美名作展  
表千家・裏千家・武者小路千家 添釜 コデンソゴウ ●

3/5 3月月釜 席主:山下恵美 本覚寺 ●

3/12 栗林公園日暮亭改修記念茶会 席主:松寿会 日暮亭 ●

4/2 4月月釜 席主:杉山恵子 本覚寺 ●

5/7 5月月釜 席主:竹井清子 本覚寺 ●

5/14 香川官休大会 披雲閣 ●

財小原流高松支部 ☎(087)833-9274

3/3~5 いけばな小原流習体展Part IV  
丸亀町レツツ1F・2F 10:00~ ■

一生本流 ☎(087)851-2511

一生本流創立五十五周年記念花展  
前期 4/13~14 後期 4/16~17 香川県文化会館 ●

草月流香川県支部 ☎(087)821-5332

3/19~20 草月流香川県支部展 坂出市立美術館 9:00~ ●

一茶流久松会 ☎(087)885-2322

4/15~16 平成12年一茶流久松会 いけ花展 丸亀町レツツ ■

未生流香川県連合支部 ☎(087)841-9450

3/11~12 未生流いけばな展  
主催:香川支部・讃岐支部・西讃支部  
香川県文化会館 10:00~ ●

香川いけばな連盟 ☎(087)861-3284

第36回香川いけばな連盟展  
前期 5/25~26 後期 5/27~28 ●

高松市立美術館 9:00~ ●

華道一生流 ☎(087)821-4347

5/21 一生流葵会鬼子母神尊夏祭り茶会  
本覚寺別院 9:00~ ●

高松商工会議所婦人会 ☎(087)825-3505

3/3 おひなまつり茶会 中條文化振興財団 ●

# イ ベ ン ト ガ イ ド

高松市教育委員会 ☎(087)839-2636

3/3 第22回デリバリーアーツ事業「タップダンス」■  
白ゆり服装学院 14:30~

3/4 第23回デリバリーアーツ事業「タップダンス」■  
さくら荘(林町) 10:45~

3/4 第24回デリバリーアーツ事業「タップダンス」■  
一宮公民館 14:00~

3/30 「パブリックアート・高松探検」■  
高松市役所 14:30~

3/26 ふるさと探訪 庵治町 9:00~ ■

高松市立市民会館 ☎(087)839-2888

3/5 親と子の市民映画祭 ●  
「それゆけ! アンパンマン」10:30~・13:00~

3/12 高松市音楽協会春の音楽祭 13:00~■

3/19 第55回島田バレエ学校発表会 9:30~ ■

3/24 高松高校吹奏楽部第25回定期演奏会 ■  
18:00~

4/3 CASCADEコンサート 18:30~●

4/19 川中美幸 歌謡ショー ●  
14:00~・18:30~

香川県文化会館 ☎(087) 831-1806

3/1~5 第35回日本墨彩画院記念展 ■

3/15~19 第21回青龍女流書道展 ■

3/23~30 香川デザインフェスタ2000 ■

4/5~9 第19回現代書展 ■

4/26~5/7 第39回日本現代工芸美術展 ■

5/27~6/11 第65回香川県美術展覧会(前期) ■

高松市図書館 ☎(087) 861-4501

3/18 サンクリスタルコンサート「昭和の歌謡」■  
視聴覚ホール 18:00~

3/25 香川の婚礼料理について ■  
第1集会室 14:00~

3/28 一日図書館員 第1集会室 13:30~■

高松市美術館 ☎(087) 823-1711

~3/26 パリのカフェと画家たち展 2F展示室 ●

~3/26 第5期常設展 1F展示室 ●

4/22~5/21 シスレー展 2F展示室 ●

4/26 アンナ・クオ ソプラノリサイタル ●

1Fエントランスホール 夜

菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

3/4 文芸講座「讃岐の女性②」 ■

第1集会室 13:30~

親子で楽しむ菊池寛劇場(朗読劇) ■  
視聴覚ホール 10:30~

3/11 菊池寛名作朗誦会 視聴覚ホール 13:30~■

菊池寛記念館'99コレクション展 ■  
研究閲覧室 9:00~

4/8 文芸講座「テーマ未定」 ■  
第1集会室 13:30~

5/6 文芸講座「テーマ未定」 ■  
第1集会室 13:30~

ミューズホール ☎(087)833-0013

3/17 堀米ゆず子ヴァイオリン・リサイタル 18:30~

4/1 第4回ミューズホール春の音楽祭 13:30~★

4/9 民謡・民舞チャリティショー ■

島田雅芳社中 11:00~

4/29 都山流尺八演奏会 12:00~■

5/12 小川典子ピアノ・リサイタル 18:30~■

5/28 劇団786桂こけし一座 第2回公演

セントラルホールウイング ☎(087) 833-0005

3/18~20 「演劇公演」 劇団銀河鉄道 ●

3/26 「ギター弾き語りコンサート」 ■

ミュージックオフィスティカ 18:00~

オリーブホール ☎(087) 861-0467

3/21 FANATIC◇CRISIS 19:00~●

4/14 SADS 19:00~●

4/28 POTSHOT 19:00~●

玉藻公園 ☎(087) 851-1521

3/16~21 香川の漆器まつり 披雲閣

3/31 新樹川柳大会 披雲閣

5/27 菊講習会 1回目 披雲閣

ヨンテンフラザ高松 ☎(087)851-3863

~3/5 墓成書道会 高松支部展 ギャラリー

3/7~12 やきもの同好会作品展 ギャラリー

3/9~10 ふれあい新鮮市&旬の野菜で超簡単クッキング

住宅電化機器体験コーナー 10:30~

3/11 でんきD Eチャレンジクッキング

住宅電化機器体験コーナー 14:00~

3/18 ふれあいキッチンコンサート

住宅電化機器体験コーナー 15:00~

3/21~26 國際交流写真展香川県海外派遣友の会 ギャラリー

3/23~24 ふれあい新鮮市&旬の野菜で超簡単クッキング

住宅電化機器体験コーナー 10:30~

3/28~4/2 ミガホンアカデミーパンフラワー作品展 ギャラリー

高松コンサート協会 ☎(087)833-9510

3/10 白杵美智代サヌカイト・リサイタル

香川県民ホール 19:00~

# イベントガイド

<b>丸亀市教育委員会 ☎ (0877)24-1392</b>	<b>善通寺市民会館 ☎ (0877)62-7001</b>	<b>ユーフラザうたづ ☎ (0877)49-8020</b>
3/18・19 第30回 公民館まつり 丸亀市総合会館 9:00~	■ 3/11 映画上映会 3/20 尽誠学園吹奏団定期演奏会 3/26 チャリティカラオケ発表会 4/2 第5回心と風の音コンサート	● 3/25 大野雄二トリオ+ラテンパーカッション ● 「ファンタスティックジャズコンサート」 ハーモニールーム 18:00~
<b>丸亀市文化協会 ☎ (0877)24-8826</b>	■ 4/23 映画上映会 4/29 向梅会20周年記念おどり発表会 5/7 南部公民館まつり芸能祭	■ 5/13 「子どもフェスタ」 和室 14:00~ <b>あーとらんど ギャラリー ☎ (0877)24-0927</b>
3/14~26 西讃文化協会美術展 丸亀市立資料館 9:30~	<b>仁尾町文化協会 ☎ (0875)82-2143</b>	■ 3/4~26 周豪展
5/19~21 第33回丸亀市民展覧会 市民会館・総合会館他 9:00~	3/18 総合芸能発表会 町勤労者体育センター 18:00~ 4/上 観桜茶会 町福祉会館 13:00~●	3/2~5 2000春の茶道具展 3/21~26 小林政美 作陶展 3/30~4/13 絵画コレクション展 4/1~23 林孝彦版画展 4/16~30 野田浩二染色作品展 5/4~18 現代の工芸6人展 5/6~28 青木野枝版画展
<b>丸亀市民会館 ☎ (0877) 23-4141</b>	<b>飯山町教育委員会 ☎ (0877)98-7961</b>	<b>炎まん美術館 ☎ (0877)75-3000</b>
3/23 丸亀高校吹奏楽部定期演奏会 4/2 津軽民謡名人芸の世界 5/19 第51回丸亀お城まつり前夜祭 ★	3/6~18 手作り作品展 町役場別館5F 作品展示室	3/4~7 あかね保育園園児作品展 3/10~14 こんびら写楽写真展 3/17~21 黒川知恵子絵画教室展 3/24~28 モアの会展 3/31~4/4 田辺勝啓 日曜画展 4/7~11 湯浅益夫グループ「ゆう」作陶展 4/14~18 香西洋子 おし花画展 4/21~25 火窯会展 4/28~5/9 江上寿夫 ヨーロッパ風景展 5/12~16 山神陽 女性想夢展 5/19~23 森岡潔嗣 陶展 5/26~30 萩淵琢 遺作写真展
<b>丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎ (0877) 24-7755</b>	<b>直島町文化協会 ☎ (087)892-2882</b>	<b>志度音楽ホール ☎ (087)894-1000</b>
~5/14 猪熊弦一郎展 巴里時代の仕事から 当館3F 10:00~	5/21 芸能大会 (町文化協会所属団体) 町総合福祉センター 12:00~	3/20 開運!なんでも鑑定団 9:00~ ■ 3/25 「2000年ドラえもん」上映会 ● 10:00~・13:30~
3/5 矢野顯子出前コンサート 当館2F 18:30~	<b>池田町教育委員会 ☎ (0879)75-0431</b>	4/2 志度音楽ホール少年少女合唱団 14:00~● 第8回定期演奏会
5/28 エットレ・ソットサス展 建築からグラフィックまで 当館3F 10:00~	3/18~20 蒲生公民館文化展示会 蒲生公民館 9:00~	5/3 「2000年クレヨンしんちゃん」上映会 ● 5/26 フランシスコ・アライサ テノール ● リサイタル 19:00~
<b>観音寺市教育委員会 ☎ (0875)23-3943</b>	<b>多度津芸能音楽協会 ☎ (0877)33-0760</b>	
3/5 みんなで考える子育て支援講演会 観音寺市民会館 13:00~	4/23 多度津芸能音楽祭 町民会館 10:00~■	
3/19 第19回生涯学習子どもフェスティバル 観音寺市民会館 13:00~	<b>土庄町教育委員会 ☎ (0879)62-0238</b>	
<b>観音寺市民会館 ☎ (0875)23-3939</b>	3/12 ミュージカル「オズの魔法使いII」 町立中央公民館 10:30~・14:00~	
3/5 第11回観音寺・三豊地区 大正琴演奏発表会	3/19 土庄町芸能まつり 町立中央公民館 12:00~	
3/12 第13回三豊民謡まつり	3/25・26 土庄町民文化展 町総合会館 25日 12:00~・26日 (笹)	
3/23 ラ・ディベルサ・ムジカ コンサート ●	<b>石の民俗資料館 ☎ (087)845-8484</b>	
3/29・30 「2000年ドラえもん」上映会 4/2 観音寺市民吹奏楽部定期演奏会 4/16 箏曲演奏会 4/22 「2000年クレヨンしんちゃん」上映会 ●	~3/3 春を呼ぶひなまつり 町内幼稚園児手づくり作品展 3/3~5 パッチワーク・キルト展 4/8~23 絵金の白描画と土佐和紙展 5/3~21 高畠華宵展	
<b>善通寺市教育委員会 ☎ (0877)63-6328</b>		
4/29 古墳の日 (石室内部一般公開) 宮が尾古墳・王墓山古墳 9:00~		
5/5 獅子舞大会 讃岐宮 10:00~■		

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。 (記号表示は判明したもののみ)

上記予定は変更する場合もあります。

## 「晴友会(財団友の会) 第Ⅲ期のご案内

当財団は、讃岐・香川の地が心豊かで限りなく息づいている「ふるさと」であることを願うものです。文化にも幅広いジャンルがあります。いろいろな文化を楽しめている方々、また楽しみたいと思っている方々、伝えていこうとされている方々、創り出そうとしている方々、そんな仲間を募っています。

**【対象期間】**平成12年4月1日～平成13年3月31日 **【特典】** ●当財団情報機関紙「文化通心」年4回発行の郵送

**【年会費】**3,000円

- 当財団関連の催し物のご案内
- 年1～2回の友の会交流会の実施

※申込み方法など詳しいことは当財団事務局までお問い合わせ下さい。

香川県出身のオペラ歌手を育てよう会！

特別寄稿

何故か讃岐はオペラが盛ん。まだまだ昔の農村歌舞伎のようには一般の人々に浸透して居ないが、その内きっと当たり前のようにならがオペラを鑑賞する時代がくるに違いない。という事は数多くの優秀な歌手が求められているということである。

さてここに一人の髭もじやの若き声楽家、森田学という人物が居る。といつても現在イタリアはジエノヴァに留学の身の上。優秀な語学力を駆使して実力のあるソプラノの先生に就き、彼女の信頼を得ている。既に当地でのリサイタルも経験済みで、お年寄りの観客が涙ながらに握手を求めて來たという。また始めは日本人離れした彼の風貌からか「イタリアの女子の子を弄んではだめよ」と言つたその先生は、今になつて「遊ばれないようにね」と注意してくれるそ�である。

このままイタリアで勉強を続けてゆくには  
お金がかかりすぎるという事。しかし今帰  
国しても志半ばで帰ることになり、それは  
余りに無念。こんな彼の話を聞いた我々  
「ちえちいりあ」は一念発起。みんなで彼  
を本物の歌手に育てるために全面的に協  
力しよう、ということに成った次第。

まずは知名度のない彼の歌を聴いて頂  
くために我々で音楽会を企画。人集めと  
同様、心ある方からのご寄付（奨学金）  
も集めよつ、という計画である。

彼は高松一高音楽科、東京芸大を卒業  
だが、彼の人生はストレートではない。そ  
もそも高校で普通科にいながら又音楽科  
を受け直したというあたりからもそれが窺

## 森田学さんのプロフィール

声楽家：バス  
高松一高音楽科  
東京芸術大学卒  
1989年全日本学生音楽  
コンクール関西大会1位  
1997年秋イタリア留学  
ボローニャ大学大学院自由  
研究員  
イタリア ジェノバ在住  
28才。



ぜひ一度お聞き下さい。

## 第22回 ちえちいりあ

# イタリア歌曲と「落語ペラ」のタベ

第1部：森田 学 帰国リサイタル  
第2部：落語ペラ 落語家 桂 こけ枝  
「フィガロの結婚で何んだんねん」

時：2000年7月15日（土）

PM6:30~8:30

於：高松テルサ 前壱券1,500円 当日券2,000円

- 森田君への奨学金は下記郵便口座に  
お振り込み下さい

記号 16380 番号 0006311

記号 10500 番号 55  
歌毛李田学君を育てて今

歌手森田学君を育  
成者 莲井紘子

連終生 TEL 087-865-3053

通心

「声・情報お寄せください」

編集部では、月釜等の財団の催しや「文化通心」に関するご感想・ご意見を求めております。FAXでけつこうですので気が付いたことをどしどし投書して下さい。巷でキヤツチされた面白そうな催しや企画等についてもご一報下さい。めざせ!!双方向

〒760-0017 高松市番町二丁目一一一二

TEL(087)826-3355  
FAX(087)826-3355

編集後記

ニンヒニーダーの二〇〇〇年語文問題で揺れ動いた年末だったが、大きな混乱もなく元旦を迎えることができた。それぞれの立場で対処された多くの人たちに感謝しなければと思う。ライフラインに関わる事だけに、石油ショックの時とまではいかなくとも、ある種の「買いだめ」に走った人もあったと聞く。

良し悪しは別として、いろんな情報があふれ、驚くべきスピードで世界中を飛び交い、又、それらを得る手段も多様化・高速化している今日、事実はどうなのか、それに対して自分は何をどうすれば良いのかを冷静に判断しなければ…と思いつつ、新しい年の平穏を祈った一月は終り、節分・立春と季節は移りゆき、春はもうそこに。

「文化通心」第26号は平成12年6月1日発行です。題字(切り絵)/向井慶子